

2016年
ヒューマンドキュメンタリー
映画祭〈阿倍野〉
招待上映

2017年 12月期
ハリウッド国際インディペンデント
ドキュメンタリー映画祭
最優秀作品賞、最優秀初監督賞

2017年
ドイツ・ウラン国際映画祭
招待上映

2017年 山形国際
ドキュメンタリー映画祭
「ともにある Cinema with Us 2017」招待上映

被ばく牛と生きる

日時 2018年5月17日(木) 19:00~

会場 大竹財団会議室

東京都中央区京橋1-1-5セントラルビル11F

参加費 一般=500円/学生、大竹財団会員=無料 定員30名【要予約】

主催 一般財団法人大竹財団 03-3272-3900
<http://ohdake-foundation.org>

Web予約
PC・モバイル共通



<http://bit.ly/2Hzvze5>

殺さなきやだめですか？

監督・編集 松原保 プロデューサー 榛葉健 ナレーション 竹下景子

出演 吉沢正巳 / 山本幸男 / 池田光秀 / 池田美喜子 / 柴 開一 / 渡部典一 / 鶴沼久江 / 岡田啓司(岩手大学農学部教授) 題字 日野松白 音楽 ウォン・ウインツァン
撮影 名木政憲 / 田中義久 / 松原保 監音 吉田一郎 プロダクション・マネージャー 松原真理子 協賛 パルシステム 協力 非営利一般社団法人「希望の牧場・福島」/
一般社団法人 原発事故被災動物と環境研究会 / ヒューマンドキュメンタリー映画祭〈阿倍野〉 / Tokyo Docs / 独立映画鍋 / Motion Gallery
製作 株式会社パワーアイ 配給 宣伝 太素 【2017年 | 日本 | DCP | 104分 | カラー | 16:9】 ©2017 Power-I, Inc.

<http://www.power-i.ne.jp/hibakuushi/>

絵 吉田尚令

知られざる農家の決意、軌跡に心を揺さぶられるドキュメンタリー。

2011年、福島第一原発事故から1ヶ月後、国は20km圏内を“警戒区域”に指定し、立ち入りを厳しく制限した。強制避難を強いられ明日をも見えない農家は、涙をのんで従うしかなかった。震災発生当時に約3500頭いた牛は、牛舎につながれたまま残され約1400頭が餓死した。翌5月、農水省は放射能汚染された食肉を流通させないため、20km圏内にいるすべての家畜の殺処分を福島県に通達し、生き残った牛の大半が薬殺された。

しかし、「大切に育ててきた牛の命を人間の理屈だけで奪うことできない」という思いから、国が決定した殺処分の方針に納得できず、膨大な餌代を自己負担しながら牛を生かし続けようとする決意した畜産農家が現れた。ある農家は被ばくを覚悟で住んではならない居住制限区域で暮らし、別の農家は2日に1回60キロ離れた二本松市の仮設住宅から帰還困難区域にある牧場へ通い続けた――。



存在が許されない 声なき命を守りたい――。

本作は、故郷も仕事も奪われ、それでも経済価値のない牛を生かし続ける農家の静かな闘いとふるさとへの想いを見つめ、生き物の命の尊厳を問う渾身のドキュメンタリー。直視するのが辛い光景や、胸が痛む場面もあるが、どうか目をそらさずに観てほしい。本作製作のきっかけとなった短編版『被ばく牛の生きる道』は、2015年ヒューマンドキュメンタリー映画祭(阿倍野)にて最優秀賞受賞。長編版のナレーションを務めるのは俳優・竹下景子。わたしたちが知らなければいけない福島の現実と切なさを映し出した衝撃作がいよいよ公開!



その土地で、長く牛を育ててきた。殺したくなかった無意味な命にしたくなかった。

それだけのことです、この人たちはなぜ、こんなにも苦しまなくてはならなかったのだろう。

森絵都(作家)



JR東京駅八重洲中央口から徒歩4分
(八重洲地下街24番出口右階段すぐ)
京橋駅7出口から徒歩3分/日本橋駅B3出口から4分